

5 バズセッションを用いて、一人一研究授業後の討議を小グル - プで行い、研修意欲を高める

[概 要]

組織づくり

教科研究部

グル - プ研究部

実践

一人一研究授業

討議

バズセッション

概念化ワ - クシ - ト

討議結果の共有

ネット掲示板

一人一研究授業により、全教師の授業力を向上させ、研修意欲を高める

教師は授業で勝負するという。日々の授業実践の積み重ねは大切であるが、授業改善を行うためにはそれだけでなく、他者からの意見を取り入れるための「一人一研究授業」が必要になってくる。教師個人の授業力向上だけでなく、学校全体の教師の授業力を向上させないと、実際には生徒の学力向上にはつながらないことが多い。そのためには、一年間を通して全教師の研修意欲を継続させつつ、一つ一つの研究授業をうまくつなげていく工夫が必要である。

視点の異なる小グル - プの活用により、研究に質の向上と機動力をもたせる

ものを見るとき、一つの視点や立場から見ただけでなく、多面的な見方をしないと本当の姿は見えないことが多い。同じ教科はもちろん、他教科での工夫を参考にしたり、異なる立場から意見を聞いたりすることで、授業改善のヒントを得られるものである。

そこで、教科研究部（以下、K研）だけでなく、学年や校務分掌のバランスをとったグル - プ研究部（以下、G研）を有効に活用したい。

K研とG研を時と場によって使い分け、その間

を行ったり来たりすることで、一年間の研修も深まる。このときの一つのグル - プは5～6人以内が望ましい。少人数で活動することにより、討議も活発になり、会ももちやすくなるからである。

一人一研究授業後のバズセッションは、短時間で有効な協議ができる

せっかく授業公開をしても、参観者が少なかったり、実施後に十分な協議の時間がとれなかったりすることが多く、時間の確保は授業研究にとって大きな課題である。

そこで、授業者のいるK研とG研のメンバーは必ず授業参観するというルールをつくり、研究授業を実施する。一週間前までに授業日が分かれば、日課変更もほぼ可能であるし、自習監督もつけられる。実施後は、いつも放課後の決められた時間と場所を設定しておき、バズセッションで討議を行う。

バズセッションは、6人で6分間の話し合いが効果的であるとする「6・6法」を、フィリップという研究者が提案したことが始まりである。

「バズ」とは、虫の羽の音をいい、「セッション」とは会合のことをいう。バズセッションとは、虫の羽の音のように、がやがやと騒々しく活発になるような話し合いを意味している。テーマに基づき参加者全員が自由に話し合える機会が与えられ、相互作用によって話し合いを深めていく。参加者

が目的意識をもち、グル - プ内で積極的に発言し、相互に影響し合うことが大切である。



バズセッションの様子

実際には、次の手順で行う。

参観者が集まり、参観で感じた気付き（プラス面もマイナス面も）のメモをもとに、6分間自由に意見を述べ合う（ただし、一人の発言は30秒から1分以内とする）。

その後、6分間、意見を自由に述べ合う。この間に、司会がまとめたり、授業者に質問したりすることは一切しないこととする。また、時間をきちんとはかり、絶対にオ - バ - しない。

この方法だと約15分間で協議が終了する。放課後は、生徒指導や部活動などでなかなか時間をとることは難しい現状があるし、時間がとれても、毎回1時間もかかる協議では、参加意欲も衰えていく。きっちりと時間管理をすることで、緊張感をもって協議にのぞみ、本当に大切なことだけを発言するという習慣が身に付いてくる。

ただし、時間が短時間であるため、細かい気付きまで出すことはできない。その点は、参観者が「授業アンケート（授業評価結果と感想）」を記入し、授業者に返すことで解決できる。

必要であれば、G研のみをこの手法で行い、その後、K研を時間をかけて行うことも可能である。

大切なことは、短時間でも必ず協議の時間をとり、授業の成果と課題を確認し合うことである。

概念化ワ - クシ - トにより、討議結果を成果と課題に整理する

概念化シ - トとは、体験からの気付きを学びに転換させるために用いる振り返りのワ - クシ - ト

の一種である。シ - トは4象限に仕切っておき、横軸には「教師」と「生徒」、縦軸には「プラス面」「マイナス面」とする。このシ - トを使うことで、「どのようなことを学んだのか」「どのような課題があるのか」「今後どのような方向をとればいいのか」という、気付きから学びへ、さらに今後の課題や目標までをグル - プ内で共有することができる。振り返りのワ - クシ - トには、この他、指導案を使ったり、マトリクス法（2つの変数の組み合わせからアイデアを発想する方法）を使ったりするものも考えられる。



概念化ワ - クシ - ト

ネットの掲示板機能を使って授業研究をつなぐ

各研究授業同士をうまく結び付け、成果や課題を共有するためには、バズセッションの内容を公開する必要がある。

そこで、校内イントラネットの掲示板機能を使って、協議内容を掲示していく。ネット上では、時間を気にすることなくいつでも自由に感想を返信できるため、意見交換の深まりも期待できる。また、ネット上で疑問に思った事は、校内で実際に顔を合わせての情報交換や話し合いも可能である。これは、そのまま研修の記録としても活用できる。

いずれにしろ、教師の授業力向上が叫ばれる中、前向きに授業公開や研究協議ができる校内研修の雰囲気づくりが大切であると考える。

<参考文献>

村川雅弘、『授業にいかす 教師がいきる ワ - クショップ型研修のすすめ』、ぎょうせい